

はあ～、と溜息をつくことがこのところ多い。

幸せが逃げるから溜息はついてはいけないと言われていた昔と比べ、リラックスに役立つ効果が明らかとなり、昨今では溜息が見直されている。それにしても、溜息が出過ぎるほどよく出る。

同じ事ばかり繰り返し言うのは、年を取った証拠だと巷で言われるが、確かに、無駄に齢を重ねてきたので、「さっきも言うたやん」と指摘されることが増えた。それでもなお、やっぱり繰り返し伝えたいことが、くどいけれどもある。

『私たち人間は完全に正しいことばかりができるわけではないと考えます。だからこそ、グラデーションの落としどころを相談し合う思慮はとても必要だと思います。』

昨年12月校長室だよりで記した一文を再掲したのは、二項対立が一層際立ってきたと感じるが故、溜息が増えたと思えるからだ。自分はゼツタイ正しいという思いで固まると、相手の立場を慮（おもんばか）ることがとても難しくなる。そして、柔らかい心持ちや言葉遣いまでも、固くなった心は受け入れることを拒んでしまう。

『最初はやりとりができていたキャッチボールが、知らぬ間にドッジボールになっていたとは、笑い話にもならないことがなんと多いことか。』（12月号再掲）

キャッチボールで投げるときの基本は、受け手が投げられたものをキャッチ出来るよう投げることだろう。相手の力量を考慮に入れずに投げられたものは、往々にして予想外の展開（殆どの場合は良くない）を生む。そして、二項対立がどんどん進む。はあ～。

自分の投げたものが相手にどう届くかを見定め、楽しくキャッチボールをしたいと思う。二色だけに留まらない、多彩な色に溢れている世界を歩みたい。